

TruPhase の導入(18)
—TANNOY Autograph MINI の音質確認(3)—

1. はじめに

前報(17)に引き続き TANNOY Autograph MINI での音質確認を行います。

2. TruPhase の RCA 入力における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、ZANDEN Model 120 および Brooklyn DAC+からの RCA 出力を PX-25 シングルアンプに入力します。なお、TruPhase の出力側にアナログアキュライザーを使用しています。

音源は、すでに P&G のフェーダーで評価の固まっている次のデジタル音源を使用し、Brooklyn DAC+の条件設定も既知の条件にしています。

音源としては下記を使用しました。

fidata HFAS1-S10 収納 11.2MHzDSD 音源

[ディスコグラフィアー【2017No.76】](#)

ステレオサウンド社 SSHRB-005

ヨハン・セバスティアン・バッハ：無伴奏チェロ組曲

ヤーノシュ・シュタルケル

fidata HFAS1-S10 収納 MQA

[ディスコグラフィアー【2018No.95】](#)

Universal Music UCCG-40005

アントン・ブルックナー：交響曲第 4 番《ロマンティック》

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

CD ドライブより fidata HFAS1-S10 経由再生 CD 音源

[音源の位相チェック実験\(27\)](#)

DECCA UCCD-9823/24

J.S.Bach : Sonatas & Partitas

アルチュール・グルミヨー

Deutsche Schallplatten TKKC 70027

J.S.Bach : Sonatas & Partitas

カール・ズスケ

[音源の位相チェック実験\(29\)](#)

SONY Classical SICC 30087

J.S.Bach : 無伴奏ヴァイオリンソナタ 3 番

無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番

ヒラリー・ハーン

Anchor Records UZCL-1030

J.S.Bach : 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番

無伴奏ヴァイオリンパルティータ 2 番・3 番

エンリコ・オノフリ

3. TruPhase の RCA 入力における動作確認の結果

シュタルケルのバッハのチェロ組曲は、11.2MHzDSD の効果により、滑らかな音で再生されますが、シュタルケルの豪壮なボウイングまでは再現できていません。

Brooklyn DAC+で位相反転しますと、音像がぼやけます。

ベーム指揮ウィーンフィルのブルックナーの交響曲第 4 番は、MQA らしくオーケストラの細かい表現や広がり感も出ていますが、フォルテシモの迫力までは無理があります。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、定位がはっきりしてきます。

グルミヨールのバッハは、艶のあるグルミヨールのボウイングの様を忠実に表現しています。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、音像がぼやけます。

ズスケのバッハは、これまでの印象では、ややそっけない演奏のように聴こえていましたが、しみじみとした味わい深い演奏であることが分かりました。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、音の焦点があってきます。

ヒラリー・ハーンのバッハは、ヴィヨームのびやかなボウイングで透明度の高い音で再現されています。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、音像がぼやけます。

オノフリのバッハは、ガット弦で自在奔放に弾ききるバッハで、間接音まで聴き取れます。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、音像がぼやけます。

4. まとめ

fidata 収納のハイレゾ音源および CD の再生において、スケール感の再現は無理ですが、それぞれの持ち味が発揮されました。また、位相の把握も十分に可能でした。

以上